

MBTI 日本語版に関する基礎研究

中 澤 清

目 的

わが国においては類型論の立場に立つパーソナリティ質問紙法としてはモーズレイ人格目録（MPI 研究会編，1969）がみられる程度で，少数派である。Jung, C. G. (1921)の類型論に立った質問紙法 Myers-Briggs Type Indicators (MBTI; Myers, I. B. & McCaulley, M., 1969) はアメリカでは相談場面や教育現場，企業の組織編成，人事政策などで古くから使用されてきたパーソナリティ検査であるが，日本では日本語版の動きすらない。本研究はこの MBTI の日本語標準化を目的として，基礎的布置を明確にするために行われた。最近行われた MMPI の日本版の改訂をみればわかるように，質問紙法を標準化する時にはまず第一に言葉の問題を乗り越えなくてはならない。特に MBTI は通常の質問紙法と異なり，文章で質問する項目だけではなく単語の項目があるという特徴を持つ。それゆえ一層日本語に訳すときに神経質にならなければならない。第一段階として MBTI の紹介を兼ね，日本語訳を行い，基礎資料を集め，どのような問題があるのかを考えてみたい。

MBTI について

パーソナリティの記述理論の中で Jung はリビドーの向かう方向に注目し内向・外向という態度の類型をおこなった。この類型とは別に思考・感情，直観・感覚という相対する心理機能を考えた。この4種の機能が外向・内向の態

度と組み合わせられて8種の類型ができる。**Jung**の類型論が他の類型論と異なるのは、他の類型論が一生変化しない静的、固定的であるのに、ユングのそれは力動的である点である。**Jung**は意識と無意識が相補的に働き、条件により意識的な機能が出現したり、逆に相補的關係にある無意識的な機能が出現すると考えている。このような変化の過程を個性化の過程と呼び、成長に伴う変化の過程と考えられる。

MBTIは**Jung**理論に従っているが、**Jung**と異なる点は、4種の心理機能が2種の態度に組み合わせられるのではなく、内向-外向という態度、思考-感情、感覚-直観という機能が態度とは独立しており、新たに判断-認知という機能軸を加えたことである。各指標は、認知と判断を用いる方向を示す4つの基本的な選択（**preference**）の1つを反映している。選択は人々が与えられた状況においてなにに注意するかということだけではなく、彼らが認知するものについてどのように結論を下すかということにも影響する。

MBTIの理論の中心は、人間の行動は一見するとでたらめのようにだが、個人が認知を用いるか判断を用いるかを選択するという基本的な違いが存在するだけで、実際には非常に規則正しく、一貫しているということである。ここでいう判断とは認知しているものについての結論に至る方法をいう。**Myers**は人がなにを認知し、どのようにして結論に達したかを正しく区別できるなら、反応、興味、価値感、動機づけ、技能を区別すること容易だと述べている。

MBTIの指標の意味は次のように説明されている。

外向型 - 内向型（**Exraversion-Introversion**）

EI指標は、向性を反映するよう意図されている。外向性の人は人と物に自分たちの認知と判断を向ける。内向性の人は概念と観念に自分たちの認知と判断に焦点を合わせる。

以下3種の指標と異なり、向性は一方が意識態度で他方が無意識的態度として行動に表れる。

感覚型 - 直観型 (Sensation-iNtuition)

SN 指標は「認知」様式の選択を反映する。感覚型の人は五感で感じることでできる観察可能な事実に関心を持つ。直観型の人は直観過程により頼ろうとするので、意識の及ばないところで実現される意味や関係性や可能性を報告する。

思考型 - 感情型 (Thinking-Feeling)

TF 指標は「判断」の選択を反映する。判断が要求される時、思考型の人は主として合理的な結果に基づく非人格的な思考に頼る。感情型の人は主に個人的、あるいは社会的な価値感に基づく感情に頼る。

判断型 - 認知型 (Judging-Perception)

JP 指標は外界を処理する際の過程を反映する。判断を好んで用いる人は、外界を扱う際に判断過程（思考あるいは感情）を好む。認知の方を好む人は、外界を扱う際に認知過程（感覚あるいは直観）を用いることを好む。

MBTI は項目が強制選択法をとっているが、対になった項目はすべて対極に位置する指標で構成されている。多くは 2 項目のいずれかを選択するが、3 項目から選択する選択課題項目もある。選択課題項目は Myers により、より包括的な類型選択を喚起する刺激として選択された、ごく一般的・日常的な些細な出来事で構成されている。問題によりそれぞれの回答には 0, 1, あるいは 2 点が割り当てられている。通過率 72% 以上の項目は 2 点の重みが付けられ、63% から 71% まで通過率を示す項目は 1 点の重みが与えられ、他は全て加重点 0 点である。また性別に通過率を計算した時にこれらの通過率を示せば、その性において同様に加重点が与えられる。各選択で重みをつけられた評点の合計はポイントと呼ばれる。

たとえば E ポイントと I ポイントはそれらの差に基づき E 12 や I 19 のように EI 選択得点として計算される。アルファベットの記号が選択の方向を示

すのに対して、数値は選択の強さを示す。このようにして決定された選択の4つの記号によって（例えば、ESTJ, INFP）、16の「類型」を生じる。この理論は選択間に生じるダイナミックな関係を仮定し、類型の詳しい解説がなされており、カウンセリングや教育指導、人事などに広く用いられる。

なお MBTI は現在、標準形式である form F（166 項目）と form G（136 項目）および form G の自己採点版（94 項目）、短縮版の form AV（自己採点版 form G の初めの 50 項目）の 4 形式が出版されている。項目数が異なるのは form F と form G が研究項目を含んでいるからで、他は含んでいない。form F と form G の項目は研究項目以外ほとんど同一であるが、form G は MBTI を最後までやり遂げられなかった被験者の正確な類型を知るため、研究項目を後半に配置替えしている。研究項目を省略している自己採点版 form G は感圧転写法を用いて自己採点するので、そのため form G とは項目の配置が異なる。

方 法

被験者 関西、関東の主として文科系学部に所属する大学の大学 1 年生から 4 年生 488 人、男性 251 人、女性 237 人で、年齢は 18 歳から 26 歳である。ほとんどが日本人であるが一部アジア系留学生が含まれている。

手続き 心理学関係の授業の中で、授業担当者が課題として施行した。授業時間中に配布し、施行、回収した。

MBTI 日本語訳について 日本語版作成に際し用いた MBTI は自己採点版 formG である。自己採点版 formG は採点方法の関係で文章形式の項目が 2 群、単語形式の項目が 2 群、合計 4 群に分かれている。本日本語訳版作成にあたり、各 2 群の項目をまとめ、文章形式項目、単語形式項目各 1 群ずつで構成した。なお form G は文章－単語－文章という構成になっている。

本研究に先立ち、66 人の大学 1 年生に試験的に施行し、質問の意味が理解できるかどうかを問い、多義的質問や理解しにくい項目には印を付けさせ、その項目については訳を検討した。また英語版では「あなたは……ですか？ あるいは……ですか？」という質問形式であり、試験的施行の訳ではこれに従った。しかし本日本語訳では「わたしは……」という質問形式に改めた。なお原版では文章の質問の読書能力水準は、Dale-Chall 公式に基づい 7 年生から 8 年生、対になった単語の質問は 4 年生水準以上であると推測されている。アメリカにおいて MBTI は成人と高校生に対して実施可能であるとしている。日本語訳もこの程度の水準で解答できるようにした。

結 果

付録に検査項目を掲げる。表 1 は 8 種の過程ポイントの α 係数と折半法による信頼性を示した。尺度によって差がみられるが、 α 係数も折半法も共に十分な水準に達していると考えて良いであろう。

MBTI の粗点は原版では加重点を加えるが、本研究では十分な被験者数ではないので、加重点を加えていない。図 1 から図 8 に男女別に下位過程の得点分布を示す。表 2 は下位過程の性差である。性差は T 尺度と F 尺度に有意差を生じた。女性は男性より感情型が多く、思考型が少ないことを示している。

表 1 8 過程尺度の信頼性

尺度名	項目数	α	折半法
E 尺度	21	.68	.67
I 尺度	21	.74	.72
S 尺度	26	.53	.54
N 尺度	26	.54	.56
T 尺度	23	.58	.51
F 尺度	23	.67	.65
J 尺度	22	.73	.66
P 尺度	26	.71	.63

表 2 8 過程得点の性差

尺度	男 性	女 性	t	P<
	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)		
E 尺度	10.35 (4.29)	10.27 (3.59)	.310	n. s.
I 尺度	10.32 (4.27)	10.27 (3.54)	.081	n. s.
S 尺度	10.55 (3.32)	10.31 (3.54)	.641	n. s.
N 尺度	15.46 (3.31)	15.56 (3.56)	.261	n. s.
T 尺度	9.63 (3.17)	8.36 (3.26)	4.11	.005
F 尺度	13.73 (3.59)	15.23 (3.63)	4.36	.002
J 尺度	11.07 (4.44)	11.89 (4.28)	1.78	.1
P 尺度	12.10 (4.16)	11.52 (3.82)	1.288	n. s.

df=486

考 察

MBTI の日本語訳における他の心理検査とは異なる困難な問題は、単語項目がどういう刺激価を持つかということであった。訳にあたっては態度や機能を考慮して行ったが、社会的望ましさまでは手が回らなかった。たとえば項目番号 50 の「作る (make)」(感覚) と「創る (create)」(直観) では、「作る」を選択した被験者は男性 4.0%、女性 3.3% しかいなかった。このような直訳ではなく、原版から離れて自由に単語を選別した方が良いのかもしれない。また文章項目も、ごく一般的・日常的な些細な出来事で構成されており、文化の差が出やすいと思われるので、そのような点にも細心の注意を払った。

さて MBTI の誕生に関しては McCauly, M. H. (1981) が詳しく述べており、それを簡単に紹介する。パーソナリティの相違に関心を持った Katharine C. Briggs は彼女独自のパーソナリティの分類法を発展させた。1921 年に英語に翻訳されたばかりの Jung のタイプ論 (Psychological Type, 1921) を読み、彼女が考えていた類型論と、より詳細であったが、似ていることに気がついた。彼女はそれを勉強し、娘の Isabel (結婚して Myers となる) に教えた。第二次世界大戦のさなか、母娘は互いを理解しなかったことが戦争の原因であるのだと考え、ユングの理論を具現化する道具を作る決心をした。一連の

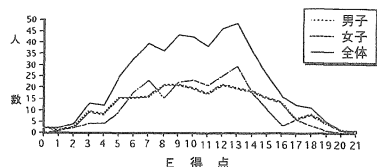


図1 E 得点の分布

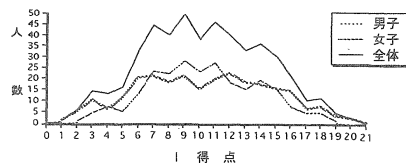


図2 I 得点の分布

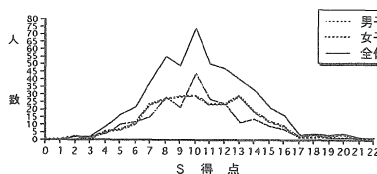


図3 S 得点の分布

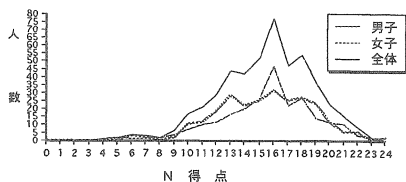


図4 N 得点の分布

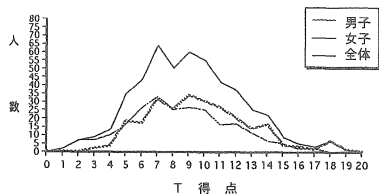


図5 T 得点の分布

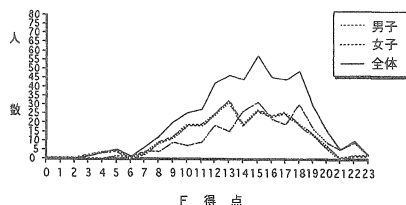


図6 F 得点の分布

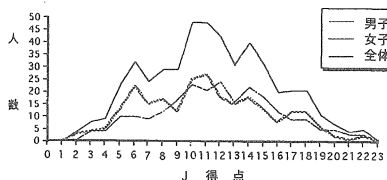


図7 J 得点の分布

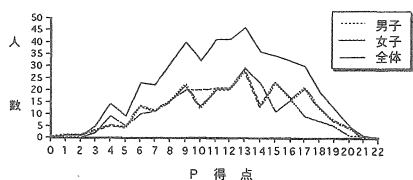


図8 P 得点の分布

検査を洗練させ、多くの被験者に実施し、データを蓄えていった。そして1962年に Educational Testing Service から最初の MBTI が出版された。1965年 Florida 大学の McCauly に出会い、1975年に Center for Applications of Psychological Type を創設し、ここは MBTI 研究の中心となった。現在 MBTI は Consulting Psychologist Press より発売されている。このように MBTI は心理学とは全く関係のない2人の女性によって作られたのであるが、その発展には多くの心理学専門家がかかわっている。

アメリカの心理学者は類型論の立場をとるパーソナリティ理論には否定的な見解を持っているといわれている (Aiken, L. R., 1996)。しかしそれにも増して、MBTI は施行や解説のための書籍類 (Myers, I. B., 1993)、コンピュータソフトウェアなどの品揃えがなされており、解釈や解説するための情報や技術が準備されているために広く用いられている。MBTI は受験の構えを調べる尺度が用意されておらず診断やスクリーニングではうまく行かないかもしれないという評価 (Willis, C.G. 1984) や、パーソナリティ理論に基づいて構成されたインベントリーのよい例であるという評価 (Aiken, 1994)、充分な数のサンプルに基づき標準化されているが、サンプルに偏りがみられるという評価 (Kline, P., 1994) など、その評価は研究誌に散在している。またパーソナリティ理論をわかり易く解説した啓蒙書も見受けられる (Kroeger & Thuesen, 1988, 1992)。ところがアメリカではいろいろ評価されているが、日本においては MBTI という名称すら見かけることはない。ユング派の心理療法家が多いにもかかわらず、注目されないのは彼らが心理検査に興味を示さないためであろうか。

さて MBTI の主な目的は 4 つの基本選択を明らかにすることである。外向 - 内向、感覚 - 直感、思考 - 感情、判断 - 認知という 4 つの指標はあるひとつの方向を示すように意図されている。それらは特性あるいは行動を強さを測定するための尺度として作成されたのではない。その目的は、右利きや左利きから類推されるような、拮抗する 2 者間に見られる無意識的な選択を反映している。なにかに手を伸ばそうとしている時、人は右手と左手の両方が使える状況にあっても、利き手の方の手を伸ばす。しかし左手でつかもうと意識したときには左手を使う。意識するとどちらの手でも使うことができるように、すべての人は 4 つの指標の両方を使うが、無意識的には好みの機能や態度を頻繁に使用すると仮定されている。

それぞれの指標が示す類型に対して、1 番得点の高い機能を支配機能 (dominant function)、2 番目の機能は補助機能 (auxiliary function) と呼ばれる。たとえば外向的な人は支配機能として外向的態度を用い、補助機能として内向

的態度を用いる。内向的な人はいくら補助機能（この場合は外向性）を強調しても、支配機能（この場合は外向性）を示す外向的な人よりも過小評価される傾向にある。このような支配機能と補助機能が異なる態度としてあらわれるという Myers のモデルは、一つ態度の中に支配機能と補助機能の両方が存在するとするユング派の研究者には受け入れられないことの一つであるといわれている（McCaulley, 1981）。

Jung のタイプ論の中心的類型は向性であるが、MBTI 理論では向性と判断 - 認知過程である。判断 - 認知過程は行動や態度のように顕現的属性の反映であり、それゆえ外向性との関連を考慮しなければならない。この点に関して、Briggs（1980）は次のように考えている。外向的な人の行動の特徴は認知機能を外に向けること、つまり好奇心、受容力、自発性、順応力と関係している。また判断機能を外に向けるための選択、つまり現在の体制や秩序に対するあるいは将来の長期計画に対する決定（興味を持っていなくても課題に自分自身を当てはめようとする）や好みと関係している。

判断 - 認知指標によって描写される態度や行動の情報は独立して用いられ、判断 - 認知指標に与えられた第一の目標は外向 - 内向態度と関連して、支配機能と補助機能を明確にすることである。環境に対して思考や感情を用いる人の行動的特徴（即ち、判断機能の 1 つを外向した人）は 判断 - 認知選択の判断の極に基礎を形成する。したがって人が思考や感情という判断過程を好むとするなら、その人の判断過程は外向的属性を持つ。もしその人の向性が外向型であるなら、向性と判断 - 認知機能は一致するので判断機能が支配機能となる。

ここで ESTP と ISTP のタイプについて考えてみよう。両方とも認知機能を選択しているので、共に好奇心が強く、自発的で、環境に対して開放的である。判断 - 認知指標は外向的な行動や態度を反映する。認知過程（両方とも感覚型）は外向的である。外向型である ESTP は外向型が支配機能で、思考を補助機能に持つ外向的感覚型であることを示している。しかしながら内向性を示す ISTP は、思考が支配機能として明確であるので、外向的認知機能は補

助的である。ISTP は、感覚を補助機能に持つ内向的思考型と呼ばれる。

このような特徴をもつ MBTI は、それまでの類型論に立つパーソナリティ検査と多くの点で趣を異にすることを理解して頂けたと思う。Kline (1994) は MBTI はユングのパーソナリティ理論を用い、理論を実用にした心理検査としてはうまく構成されていると評価している。Myers (1993) が尺度は人間のあらゆる行動にかかわる認知と判断という基本的機能と関係しているので、実用的な応用範囲は非常に広いと語っているように、MBTI はさまざまな研究や実用に供することができると思われる。本研究では被験者数が少なく、得点に加重点を付与することができなかったが、日本におけるパーソナリティ測定の有効な道具となるよう努力したい。

引用文献

- MPI 研究会編 1969 新・性格検査—モーズレイ性格検査 誠信書房
- ユング, C. G. 林 道義訳 1987『タイプ論』みすず書房 (Jung, C. G. 1921 *Psychologische Typen*. Rascher & Cie.)
- Aiken, L. R. 1994 *Psychological Testing and Assessment (8th ed.)*. Allyn & Bacon.
- Aiken, L. R. 1996 *Personlity Assessment Methods and Practices. (2nd ed.)*. Hogrefe & Huber Publishers.
- Kline, P. 1994 *The Handbook of Psychological Testing*. Routledge.
- Kroeger, O. & Thuesen, J. M. 1988 *Type Talk*. Tilden Press.
- Kroeger, O. & Thuesen, J. M. 1992 *Type Talk at Work*. Tilden Press.
- McCaulley, M. H. 1981 Jung's Theory of Psychological Types and the Myers-Briggs Type Indicator. In MaReynolds, P. (ed.) *Advances in Psychological Assessment, Vol. 5*. Jossey-Bass Publishers.
- Myers, I. B. 1993 *Introduction to Type (5th ed.)*. Consulting Psychologist Press.
- Myers, I. B. & McCaulley, M. H. 1985 *Manual: The Myers-Briggs Type Indicator*. Consulting Psychologist Press.
- Myers, I. B. & Myers, P. B. 1980 *Gifts Differing*. Consulting Psychologist Press.
- Willis, C. G. 1984 Myers-Briggs Type Indicator. In D. J. Keyser & R. C. Sweetland (eds.), *Test Critiques, Vol. 1*. Test Corporation of America.

付録 MBTI の検査項目

設問 A

1. わたしは普段から
 - a ☐ 人付き合いがよいほうです。
 - b ☐ もの静かでひかえめなほうです。
2. もしわたしが教師だとすれば,
 - a ☐ 実際のな科目を教えたいです。
 - b ☐ 理論的な科目を教えたいです。
3. わたしにとって価値ある褒め言葉は,
 - a ☐ 真の感受性を持つ人と呼ばれることです。
 - b ☐ 首尾一貫した合理的な人と呼ばれることです。
4. わたしがどこかに行く時,
 - a ☐ こと細かに計画しようとします。
 - b ☐ 細々したことは考えないですぐに出かけようとします。
5. わたしは,
 - a ☐ ごく少数の人と真の友情を持つ傾向があります。
 - b ☐ 多くのさまざまな人々と幅広く友情を持とうとします。
6. スケジュールに従うことは,
 - a ☐ 好きです。
 - b ☐ 束縛されているように感じます。
7. わたしが普段、仲良くやっていけるのは,
 - a ☐ 空想するのが好きな人です。
 - b ☐ 現実的な人です。
8. わたしにとって従うことが難しいのは,
 - a ☐ いつも同じようにすることに対してです。
 - b ☐ たえず変化することに対してです。
9. 身近な人はわたしがどのように感じているか,
 - a ☐ たいていの事柄について知っていると思います。
 - b ☐ 特別な理由があつて話さなければなにも知らないと思います。
10. わたしが気を使うのは,
 - a ☐ 人の権利に対してです。
 - b ☐ 人の感情にです。
11. わたしがグループの中にいる時どちらかというと,
 - a ☐ みんなの話題に加わります。
 - b ☐ 1人づつとしか話をしません。
12. わたしは,
 - a ☐ 目立たないありきたりの人を評価します。
 - b ☐ 自分が意識しているかどうかは別にして独創的で個性が強い人を評価します。
13. わたしはしばしば,
 - a ☐ 感情を理性に従わせようとします。
 - b ☐ 理性を感情に従わせようとします。
14. わたしは、デートやパーティーなどの時

- a ☐ 前もっていろいろ準備しようとしています。
b ☐ その時々におもしろいと思うことを自由にしようとしています。
15. 友人たちの間で、
a ☐ 情報が回ってくるのはわたしが一番最後になります。
b ☐ 彼らに関する情報をわたしはなんでも知っています。
16. 休日をどのように過ごすか考えると、
a ☐ わくわくします。
b ☐ とくに感じません。
c ☐ 非常に憂うつになります。
17. わたしは、
a ☐ 創造的な考え方をする人を友人に持ちたい。
b ☐ 地に足のついた堅実な考え方をする人を友人に持ちたい。
18. わたしが得意なのは、
a ☐ 思わぬ事態に対処し、なすべきことをすばやく見つけることです。
b ☐ 慎重に練られた計画を実行することです。
19. なにかばつの悪いことがあった時わたしは、
a ☐ それを冗談で済ませようとしています。
b ☐ 話題を変えようとしています。
c ☐ 後になってどう言い訳すればよかったか考えます。
20. わたしは、
a ☐ よく他の人たちを紹介するほうです。
b ☐ 紹介されるほうです。
21. わたしは周りの人から、
a ☐ 実務（实际的）的な人と思われています。
b ☐ 独創的な人と思われています。
22. わたしは、
a ☐ 義理よりも情に価値を置きます。
b ☐ 情よりも義理に価値を置きます。
23. 行事の期日が決まっている時、
a ☐ それに対応した計画を立てることができるので都合がよいと思います。
b ☐ それに縛られることに不愉快であると感じます。
24. わたしは、
a ☐ 特定の人々や特定のことにだけに限れば、言いたいことを十分に言うことが出来ます。
b ☐ 誰に対しても必要なだけ気兼ね無く話することが出来ます。
25. もし土曜日の朝に、昼から何をするつもりか聞かれたら、わたしは、
a ☐ 上手に説明できます。
b ☐ 予定が多過ぎてすぐには説明できません。
c ☐ しばらく考えてみなければなりません。
26. 好きで読む本の中では、
a ☐ 奇抜な言い回しや独創性の高い表現を楽しみます。
b ☐ 意味することを正確に表現する作家が好きです。
27. わたしは、

- a ☐ぎりぎりならないと仕事にかかれないうちです。
b ☐土壇場になると焦ってしまってなにも出来なくなります。
28. わたしはパーティーや宴会で、
a ☐うまく進行するように世話をやくことが多い。
b ☐それぞれが各自のやり方で楽しんでもらうようにしたい。
29. わたしが興味を持っていることを、知り合ったばかりの人に
a ☐よく尋ねられます。
b ☐尋ねられることは、本当に親しくなってからしかありません。
30. 多くの人たちがしていることをわたしは、
a ☐みんながしているようなやり方で行おうとします。
b ☐自分流のやり方を見つけて行おうとします。
31. 人間の最も大きな欠点は、
a ☐憐れみがないことです。
b ☐合理性を否定することです。
32. 決まり切ったやり方というのは、
a ☐ことがうまく運ぶ適切な方法だと思います。
b ☐しなければならぬことをする時でさえ苦痛だと思います。
33. パーティーや宴会でわたしは、
a ☐時には退屈になることがあります。
b ☐いつも楽しい。
34. 1週間以内に大きな計画にとりかかるとすれば、
a ☐しなければならぬ様々なことやその手順を書き出すことに時間を費やします。
b ☐むずかしく考えずにできるところからとりかかります。
35. わたしがより重要だと考えるのは、
a ☐ある状況で可能性を見つけることが出来るかということです。
b ☐あるがままに事実を受け入れ、それに順応することが出来るかということです。
36. しようと思っていることや、買おうと思っているものがあり、そしてそれが些細なことである時、
a ☐しばらく後になって忘れてしまっていたことに気がつくことがあります。
b ☐忘れないようにたいていメモをとっておきます。
c ☐メモなどが無くてもいつもちゃんと実行しています。
37. わたしはいつも、
a ☐感じたことを自由に表現しています。
b ☐感じたことを胸にしまっしまいます。
38. わたしはなんら問題がないやり方があるならば、
a ☐その方法通りにやります。
b ☐さらに不都合なことがないか分析して、それを解決しようとしています。
39. わたしは、
a ☐親切な人の下で働きたい。
b ☐公平な人の下で働きたい。
40. 新しいファッションについて、たいていわたしは、

- a ☐あまり興味を持ちません。
b ☐真っ先にやってみようとする人の一人です。
41. やらなくてはならない仕事があるとき、
a ☐余裕を持って終われるように早めに取り掛かります。
b ☐土壇場になって大急ぎで仕上げます。
42. わたしは、
a ☐自分独自の生活スタイルが好きです。
b ☐伝統的な生活スタイルが好きです。
- [次の問題のみ、答えが2つあれば、2つの□にマークしなさい]
43. 毎日の仕事で、わたしはどちらかというと、
a ☐時間と競争でしなければならない緊急事態を苦にしません。
b ☐時間に追われて働くことが嫌いです。
c ☐時間に追われて仕事をしないですむようにいつも計画をたてます。
44. わたしは、
a ☐普通の人より物事に熱中するたちです。
b ☐普通の人より物事に熱中しない方です。
45. より高く賞賛されるのは、
a ☐常識がある人だと思います。
b ☐展望を持っている人だと思います。
46. わたしは、
a ☐思いやりのないことが世のためにならないと思います。
b ☐お節介が世のためにならないと思います。
47. しなければならない特別な仕事がある時わたしは、
a ☐始める前に注意深く準備をしようとします。
b ☐やっていく中でなにが必要であるかを見つけ出そうとします。
48. わたしはいろいろな人と、
a ☐知り合いになることが難しい。
b ☐知り合いになることが容易です。
49. わたしにとって決まり切った日課は
a ☐落ちつきを与えるものです。
b ☐退屈なものです。

設問 B

- | | | |
|--|--|--|
| 50. a <input type="checkbox"/> 作る
b <input type="checkbox"/> 創る | 65. a <input type="checkbox"/> 組織的な
b <input type="checkbox"/> 自然な | 80. a <input type="checkbox"/> 同情
b <input type="checkbox"/> 見通し |
| 51. a <input type="checkbox"/> 恩恵
b <input type="checkbox"/> 祝福 | 66. a <input type="checkbox"/> 先端
b <input type="checkbox"/> 基部 | 81. a <input type="checkbox"/> 話す
b <input type="checkbox"/> 書く |
| 52. a <input type="checkbox"/> 計画的
b <input type="checkbox"/> 無計画な | 67. a <input type="checkbox"/> 柔軟な
b <input type="checkbox"/> 強固な | 82. a <input type="checkbox"/> 具体的
b <input type="checkbox"/> 抽象的 |
| 53. a <input type="checkbox"/> 発明する
b <input type="checkbox"/> 造る | 68. a <input type="checkbox"/> 活発な
b <input type="checkbox"/> 穏やかな | 83. a <input type="checkbox"/> 冷静な気配り
b <input type="checkbox"/> 暖かいところ |
| 54. a <input type="checkbox"/> 批判的でない
b <input type="checkbox"/> 批判的 | 69. a <input type="checkbox"/> 成果
b <input type="checkbox"/> 計画 | 84. a <input type="checkbox"/> 決断
b <input type="checkbox"/> 衝動 |
| 55. a <input type="checkbox"/> おしゃべり
b <input type="checkbox"/> 控えめな | 70. a <input type="checkbox"/> 耐える
b <input type="checkbox"/> 許す | 85. a <input type="checkbox"/> シンボル
b <input type="checkbox"/> サイン |
| 56. a <input type="checkbox"/> 思慮深い
b <input type="checkbox"/> 魅力的な | 71. a <input type="checkbox"/> 組織的な
b <input type="checkbox"/> 気まぐれな | 86. a <input type="checkbox"/> 調停
b <input type="checkbox"/> 裁判 |
| 57. a <input type="checkbox"/> 用心深い
b <input type="checkbox"/> お人好しの | 72. a <input type="checkbox"/> 理論
b <input type="checkbox"/> 体験 | 87. a <input type="checkbox"/> 交際好き
b <input type="checkbox"/> 一匹狼の |
| 58. a <input type="checkbox"/> 受容
b <input type="checkbox"/> 変容 | 73. a <input type="checkbox"/> 説得力のある
b <input type="checkbox"/> 感動的な | 88. a <input type="checkbox"/> 秩序立った
b <input type="checkbox"/> のんきな |
| 59. a <input type="checkbox"/> 思考
b <input type="checkbox"/> 感情 | 74. a <input type="checkbox"/> 不変な
b <input type="checkbox"/> 変化の多い | 89. a <input type="checkbox"/> 想像的な
b <input type="checkbox"/> 实际的な |
| 60. a <input type="checkbox"/> 几帳面な
b <input type="checkbox"/> のんびりした | 75. a <input type="checkbox"/> 映像的
b <input type="checkbox"/> 文字的 | 90. a <input type="checkbox"/> 同情する
b <input type="checkbox"/> 分析する |
| 61. a <input type="checkbox"/> 確信
b <input type="checkbox"/> 推測 | 86. a <input type="checkbox"/> 穏やかな
b <input type="checkbox"/> 断固とした | 91. a <input type="checkbox"/> 解説
b <input type="checkbox"/> 構想 |
| 62. a <input type="checkbox"/> 同意する
b <input type="checkbox"/> 議論する | 77. a <input type="checkbox"/> 心の温かい
b <input type="checkbox"/> 平穏な | 92. a <input type="checkbox"/> 正義
b <input type="checkbox"/> 慈悲 |
| 63. a <input type="checkbox"/> パーティー
b <input type="checkbox"/> 劇場 | 78. a <input type="checkbox"/> 事実
b <input type="checkbox"/> 観念 | 93. a <input type="checkbox"/> 注意深い
b <input type="checkbox"/> すばやい |
| 64. a <input type="checkbox"/> 有名な
b <input type="checkbox"/> 無名の | 79. a <input type="checkbox"/> 決断的な
b <input type="checkbox"/> 献身的な | 94. a <input type="checkbox"/> だれ
b <input type="checkbox"/> なに |